



CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区

いわき勿来ロータリー・クラブ

会長 鈴木 正人
幹事 嵐 繁雄
SAA 後藤 泰治
会報小委員長 今泉 敏徳

○例会日 毎週水曜日(12:30～13:30) ○事務所 いわき市植田町中央一丁目6番地の9
○例会場 ホテルミドリ 〒974-8261 ホテルミドリ内
TEL0246-62-3737

第 2752 回 例会 平成 30 年 10 月 24 日(水・晴)

2018 - 19 年国際ロータリーのテーマ
インスピレーションになろう

ゲスト
地区研修委員会
中田 博道 様 (いわき平中央 RC)

ロータリーソング 我等の生業
- 今月は経済と地域社会の発展 / 米山月間です -
4 つテスト
大平 伸人 会員

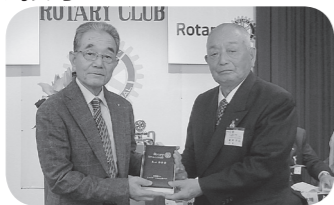


○会長報告 - 鈴木正人会長

皆さん、こんにちは。秋も深まり、朝夕は寒さを感じる季節に成りましたが、ここ数日は晴れ、雨模様と安定しない日々が続くようです。2019 - 20 年度いわき分区分のガバナー補佐はいわき常磐ロータリーの上村直人氏に決まったとの報告が高萩ガバナー補佐事務所から連絡がありました。2016 - 17 年度に私が地区の社会奉仕委員を任された時、上村さんは地区の職業奉仕委員会、倫理小委員長を歴任され、ご一緒頂きました、大変立派な方だと感じていました。ガバナー補佐という大役であります、上村さんでしたらこの大役を全うされることを確信しております。今日はロータリーデーとポリオデーで御座います。ゲストに、もう皆さんご存知のとおり地区研修委員会委員(いわき平中央 RC)の中田博道さんをお迎えいたしております。後程ご紹介と共に卓話をお願い致します。会長報告は以上です。

○米山記念奨学会より授与

特別米山功労者として鈴木正人会長に感謝状が届いております。富岡米山記念奨学会委員長よりお渡し致しますので前の方へどうぞ。



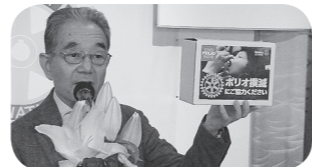
○幹事報告 - 嵐 繁雄幹事

- ・ロータリーよりロータリアン誌が届いております。
- ・ガバナー事務所から国際理解研修のご案内が届いています。
- ・日本モンゴル友好ハッピー協会第 5 回実行委員会開催のご案内が届いています。
- ・ガバナー事務所よりガバナーエレクト国際協議会社行会と大橋パストガバナー規定審議会社行会の出欠についてのお願いが届いています。
- ・米山記念奨学会からハイライト米山が届いています。

- ・いわき分区分から新入会員合同セミナー開催の案内が届いています。当クラブからは 10 名参加で申し込みをしています。会長と幹事が同行する予定です。
- ・いわき桜ロータリークラブより 11 月プログラムが届いています。
- ・ガバナー事務所から第 1 回福島植樹祭への参加について案内が届いています。
- ・いわき平中央ロータリークラブといわき平ロータリークラブから週報が届いています。

○ポリオ募金箱のご案内 - 鈴木正人会長

各クラブにポリオ募金箱が届いており、地区大会までに中間報告を行う予定になっておりますので本日は回覧し出来るだけのご寄付をお願いしたいと思います。



○各委員会報告

◇出席委員会 - 藤田紀夫小委員長

本日の出席状況は下記の通りです。

◇社会奉仕委員会 - 山下喜一委員長

平成 30 年度猪苗代湖水草回収ボランティアに参加して参りましたのでご報告致します。第 2530 地区では平成 22 年度から作業に参加しております。水質日本一と評価されていた平成 17 年度当時のレベルに近づけるにはもう少し努力が必要ということで毎年行われております。本年度は 9 月 29 日から 11 月 4 日まで毎週土、日に 12 回作業が行われています。当クラブは 10 月 14 日に 9 名で参加し、総勢参加数約 350 名でした。



◇スマイルボックス委員会 - 赤津善宣小委員長

地区研修委員会(いわき平中央 RC)中田博道様の卓話を歓迎して。富岡、富澤、赤津(善)、後藤、生駒、

島山、高萩、佐藤(政)、清水、岩本、藤田、渡邊(公)、山下、大平、渡邊(貴)、櫛田、荒川清、佐藤(英)、根本、菅野、林、岩本、川口、赤津(和)、今泉各会員及び鈴木会長、越田和副会長、木幡会長エレクト、嵐幹事、星副幹事

・本日卓話に訪問させていただきました。

いわき平中央ロータリークラブ 中田 博道 様
・赤津和三会員先日の職場訪問お世話になりました。

本間会員
・誕生祝ありがとうございました。生駒、中河各会員
・本日早退ごめんください。鈴木(雅)会員
・前回休んでごめんください。

佐藤(英)、中河各会員

◎ゲスト卓話

いわき平中央 RC

中田 博道 様



ロータリークラブの統合軸

日本のロータリークラブは会員数の減少が著しいといわれて久しいが、当 2530 地区もそのせいであろうか資金難で地区組織の運営も大変苦労だそうだ。そんな状況下、更なる会員増強やクラブ拡大等の活動が継続して地区目標に取り上げられているのを見るにつけ、そもそも RC の組織の普遍的な統合軸や効果的なクラブ運営とは何かと考える事がある。そこで哲学者内田樹氏の「映画七人の侍にみる組織論」を紹介する事で RC の組織の統合軸を考察する一助になればと思う。内田氏がある会場で「最も長く存続できる組織なり共同体は何か」と云う質問をされた時、「教育、医療、宗教、司法」と答えたそうである。そこに共通するのはいずれも子供、病人、弱者といった非力な者を守る、癒すという統合軸を持っている。集団の構成員のうち相対的に有力な者に優先的に資源が分配される「弱肉強食」共同体は、いずれ互いに喉笛を切り裂くようになり瓦解する。構成員のボリュームゾーンである標準的な能力を持つ者の利便性を優先的に配慮する「平凡」共同体はいずれ全員が均質化し規格化し、多様性を失い環境変化に対応できず瓦解する。最も耐性が強いのは構成員の中の最も非力で弱い者を育て、癒し、支援することを目的する共同体だと考えるからだという。彼によると映画に登場する七人は考えられる限りの最小の数で構成された耐性の強い「高機能集団」であるという。その構成員は

- 志村喬演じるリーダー「官兵衛」
- 稲葉義男演じるサブリーダー「五郎兵衛」
- 加藤大介演じるイエスマン「七郎次」
- 宮口精二演じる切り込み隊長「久蔵」

7 名中 3 人がリーダーが実現しようとするプロジェクトに 100% の支持を寄せる者である。サブリーダーはリーダーが見落としている必要なことを黙って片付ける。イエスマンはリーダーのすべての指示に理非を問わず従う。自立的、遊撃的な動きをするがリーダーのプランを直ちに実現できる能力を持った切り込み隊長久蔵の重要性はすぐに理解できる。

- 三船敏郎演じるトリックスターとしての「菊千代」

菊千代の役割は彼が「農民であり、かつ侍」であるという 2 つの領域に股がって生きる二重性によって、絶えず武士の秩序をかき乱し、同時に農民達

の残虐なエゴイズムを自らの行為で開示することによって農民と侍達のリアルな連帯を基礎付けている。

●千秋実演じる「平八」この人物は「腕は中の下、しかし、正直な面白いやつで、話をしていると気が晴れる。苦しい時には重宝な男と思う」とってサブダーがリクルートしてきた男である。この五郎兵衛の人事の妙は「苦しい時」を想定していることである。人を採用する際、組織が常に「右肩上がり」に成長してゆくモデルを前提としてスキルや知識や資格の高いものを採用しようとする。しかし経営者なら誰しも経験するのだろうが、その組織の存続期間の過半は悪天候であり、後退戦であろう。組織人の真価は後退戦においてしばしば発揮される。勝機に恵まれれば小才のある人間なら誰でも勝てるが、敗退局面のような苦しい時においてその能力を発揮できる人間を雇用するという発想は「攻めの経営」を誇らしげに語る経営者には宿らないものであろう。そして最後の一人

●木村功演じる若者「勝四郎」である。

リーダーの勤兵衛は数十人の野党との戦いに待全員の死を予期している。この敗退局面で「救えるものは救う」ということは、勝ちに乗じて「取れるものは取る」ことより遥かに難しい。勝四郎の役割は彼ら 6 人によって救うべきものなのであり、教育する者なのである。何故なら勝四郎には 6 人の未来が託されているからで、この重要性において、他のことには意見が違っても唯一合意しているのである。彼らは己の人生が捨て石のようなものであったとしても、その人生において築き上げたスキルや知識を勝四郎に「贈与」することによって、大人として自立した勝四郎に自分たちの存在が受け継がれる未来を想像したのである。それは犬死にするであろうリスクを冒す為には譲れぬ条件であったのである。映画七人の侍には農民を野盗から守ると云う表向きのミッションの裏に、自分たちのスキル、知識を戦いと云う極限の中で、次世代の為に命をかけて贈与すると云うミッションがあるのである。翻って、ロータリーの歴史を貫く統合軸とはといえば、「奉仕」であろう。その奉仕を実践するのはクラブの構成員である。その構成員の一員である私達はいずれ高い確率で病を得、心身が衰える。であるが故に我ら RC の構成員はかつてそうであった自分、そうなるだろう自分の変容形と考えなくてはならない。現時点での自分の利便性に基づいた組織は決して長続きはしない。そこには歴史を貫く、維持すべき統合軸がないからである。ロータリーは 110 有余年間の歴史があり、其々の RC にも歴史がある。いずれもその歴史を通じ蓄積された資源がある。それは会員各々の人生観、歴史観、自然観などの価値の交流によって醸成された知性という資源である。その資源を次世代の会員へと贈与する連鎖こそクラブの統合軸であり、奉仕の真髄なのだと思う。2016・17 年度の RI テーマは「Be A Gift To The World(世界へのプレゼントになろう)」でした。ギフトには贈与という意味もある。ロータリーの資源を次世代へ贈与する、それを普遍的な価値感として共有する事がクラブの統合軸であるというメッセージであったと思っている。

| | | | | |
|------|---------|------|----------|--------|
| 出席状況 | 正会員数 | 56 名 | カード出席 | 6 名 |
| | 本日出席会員数 | 38 名 | 本日の修正出席率 | 81.48% |